



保健だより



2024年 7月認定こども園大津保育園 46—5811

梅雨が明けると夏の到来です。夏の初めは体が暑さに慣れていないため、疲れが出やすく体調を崩すことも多くなる時期でもあります。衣服の調節や体調管理、体の清潔などに気をつけて過ごしやすいようにしましょう。



熱中症に気をつけましょう

熱中症とは、気温や湿度が高い環境で体温調節がうまくいかず、めまいやだるさなど、さまざまな症状が起こる状態をいいます。また、子どもは大人よりも身長が低いいため、地面からの照り返しの影響を強く受けます。その為、大人が暑いと感じている時、子どもはさらに高温の環境下にいることとなります。

○予防のポイント

- ・外では帽子をかぶる
- ・こまめな水分補給(一気に飲まずに少しずつ飲む)
- ・暑い時間は外に出ない(外にいる時間は短めに)



とびひ(伝染性膿痂疹)について

汗疹や湿疹、虫刺され等を掻きこわした部位に細菌が感染し、そこから「飛び火」するかのようには周辺や離れた部位に広がります。もし、とびひになってしまった場合は、他の人に感染する可能性がある為、ガーゼなどを当てて登園して下さい。



夏に多い感染症

- ・手足口病
- ・ヘルパンギーナ
- ・咽頭結膜炎(プール熱)



予防することが大切です!



これからの感染症は、接触感染、飛沫感染です。

また、アルコール消毒は効きづらいと言われていています。

こまめな手洗いうがいで予防しましょう。

SIDS(シズ)から子供を守る (乳幼児突然死症候群)

SIDSは何の兆候や既往歴もないまま乳幼児が死に至る原因のわからない病気です。日本では6000~7000人に1人の乳幼児がSIDSで亡くなっています。令和4年には47名の乳幼児がSIDSで亡くなっています。

SIDSを防ぐ1つの方法として、寝かせる時は仰向けに寝かしようつ伏せ寝をやめましょう。園ではお昼寝中のうつ伏せ寝は、すぐ直しています。仰向けに直し、起きてしまう子供がいますがSIDS防止のため、ご理解のほどよろしくお願いします。

うつ伏せ寝好きでも2週間程度で仰向け寝が定着することが多いです。

